

別添

令和5年度農山漁村振興交付金事業実施チェックシート

農山漁村発イノベーション対策 農山漁村発イノベーション推進事業(農泊推進型)のうち
農泊地域高度化促進事業

事業メニューの選択

☒	農泊地域高度化促進事業((1)インバウンド対応)
☐	農泊地域高度化促進事業((2)ア 高付加価値化対応(食))
☐	農泊地域高度化促進事業((2)イ 高付加価値化対応(景観))
☐	農泊地域高度化促進事業((3)ワーケーション対応)

地域・事業実施主体の概要

☒	事業実施主体(地域協議会)構成員数(団体数)	31 名	5 団体
☒	うち宿泊関係者数(団体数)	13 名	2 団体
☒	うち飲食関係者数(団体数)	8 名	2 団体
☒	うち体験プログラム提供者数(団体数)	10 名	1 団体
☐	上記以外の連携団体の有無 (有の場合は、連携団体の構成員数(団体数))	0 名	0 団体

※団体数は構成員が所属する組織数とする。

課題に対する対応(営業の最低継続期間)

☒	農泊地域高度化促進事業は、事業完了後5年間の営業継続を行う必要	令和 10 年
-------------------------------------	---------------------------------	---------

目標

☒	(2)目標及び評価指標(農泊地域高度化促進事業)
☒	インバウンド対応
☐	高付加価値化対応(食)
☐	高付加価値化対応(景観)
☐	ワーケーション対応

目標項目	現状 令和4年度	途中年度 令和○年度	目標年度 令和5年度	目標設定の考え方
インバウンドによる地域の売上高(万円)	13.2		180	体験@5,000円×2人/日×10日/月×8ヶ月(8~3月) 飲食@1,250円/人×100人/月×8ヶ月(8~3月)
延べ宿泊者数(人泊)	6		60	2人/泊×30泊
評価指標項目	現状 令和4年度	途中年度 令和○年度	目標年度 令和5年度	目標設定の考え方
インバウンド対応体験プログラム数	0		5	インバウンド向けに多言語化・編集したコンテンツ数
インバウンドによる飲食店来客数(人)	0		800	2人/日・軒×2軒×200日

※ 数値は事業実施主体の構成員の数値の単純合計とする。

☒	【参考】		
	目標項目	現状 令和4年度	事業着手5年目 令和9年度
	年間宿泊者数(人泊)	6	100

- ※1 事業期間が1年間の場合は途中年度を空欄とし、目標年度を事業完了年度である令和5年度とする。
- ※2 「目標設定の考え方」について、客観的な数値(例:県の観光計画、近年の旅行者数の伸び、インバウンド需要の伸び(LCC就航、クルーズ船入港計画等)、観光インフラ整備状況)を基礎として記載することとする。また、参考となる資料は別添として添付することとする。
- ※3 評価指標については、飲食店の来店者数、直売所の来場者数、体験プログラム数等の目標の達成に向けた評価項目を複数設定すること。
- ※4 それぞれの対応ごとに以下の数値目標を設定すること。
- (1)インバウンド対応:インバウンドによる地域の売上高(万円)及び延べ宿泊者数(人泊)
- (2)ア 高付加価値化対応(食):新たに開発したメニュー等の売上高(万円)及び延べ利用者数(人)
- (2)イ 高付加価値化対応(景観):新たに開発した体験プログラムの売上高(万円)及び延べ利用者数(人)
- (3)ワーケーション対応:ワーケーションによる地域の売上高(万円)及び延べワーケーション利用者数(人)

農泊推進事業・人材活用事業・高度化促進事業(施設整備事業分を除く)

【売上高】

単位:万円

構成員名	宿泊・飲食・体験	現状	途中年度	目標年度	食材提供農業者等名
		令和4年度	令和〇年度	令和5年度	
〇〇漁業協同組合	体験	13.2		80	
〇〇食堂	飲食	0		50	B集落、C集落の農業者
食堂△△	飲食	0		50	A集落の農業者
合計		13.2	0	180	

【延べ宿泊者数】

単位:人/泊

構成員名	宿泊	現状	途中年度	目標年度	備考
		令和4年度	令和〇年度	令和5年度	
民宿〇〇	宿泊	6		30	
ゲストハウス△△	宿泊	0		20	
民泊受入れ農家	宿泊	0		10	
合計		6	0	60	

※1 事業期間が1年間の場合は途中年度を空欄とし、目標年度を事業完了年度である令和5年度とする。

地域・事業実施主体の概要(ピンクセルは入力不要)

☒	事業実施主体(地域協議会)構成員数(団体数)	31 名	5 団体
☒	うち宿泊関係者数(団体数)	13 名	2 団体
☒	うち飲食関係者数(団体数)	8 名	2 団体
☒	うち体験プログラム提供者数(団体数)	10 名	1 団体
☐	上記以外の連携団体の有無 (有の場合は、連携団体の構成員数(団体数))	0 名	0 団体

事業実施主体構成員(上記表の構成員数と整合)

事業実施主体構成員(団体又は個人)の名称[法人形態]	中核法人	事業実施主体内における役割	インバウンド受入対応の可否	ワーケーション受入対応の可否
所在地及び連絡先				
〇〇市△△支所□□課		行政の立場からの指導監督		
〇〇県〇〇市 TEL:000-000-0000				
一般社団法人□□観光協会	○	事業の全体総括 地域協議会の運営・管理 受入れ農家(30軒)との連絡調整	○	
〇〇県〇〇市 TEL:000-000-0000				
〇〇漁業協同組合		体験プログラム(〇〇、〇〇等)の提供・運営の中核 直営食堂での食事提供	○	
〇〇県〇〇市 TEL:000-000-0000				
□□地区行政連絡委員会		地域住民の意見や要望の集約 食材提供や体験プログラム等の協力		
〇〇県〇〇市 TEL:000-000-0000				
民宿〇〇		宿泊施設	○	
〇〇県〇〇市 TEL:000-000-0000				
ゲストハウス△△		宿泊施設	○	
〇〇県〇〇市 TEL:000-000-0000				
〇〇食堂		食事の提供 メニューづくり	○	
〇〇県〇〇市 TEL:000-000-0000				
食堂△△		食事の提供 メニューづくり	○	
〇〇県〇〇市 TEL:000-000-0000				
民泊受入れ農家(30軒)		民泊受入れ 体験提供(家業体験等)	○	
〇〇県〇〇市				
A集落		農産物等の食材提供等	○	
〇〇県〇〇市A集落(自治会長) TEL:000-000-0000				
B集落		農産物等の食材提供等	○	
〇〇県〇〇市B集落(自治会長) TEL:000-000-0000				
C集落		農産物等の食材提供等	○	
〇〇県〇〇市C集落(自治会長) TEL:000-000-0000				

※1 地域協議会構成員については、宿泊、食事及び体験プログラムを提供する者を含むこと。

※2 「中核法人」欄には中核法人(農泊実施の中心的な役割を担う法人又は当該法人となることが見込まれる団体)である者の箇所に「○」印を記載すること。

※3 「事業実施主体内における役割」欄には、「体験プログラム(〇〇〇)を提供」「飲食店(〇〇〇)を提供」「宿泊(定員:〇名)」等具体的に記載すること。

※4 事業実施主体が連携体の場合は、地域協議会及びその構成員である農家民泊経営者等を全て記載すること。

役員名簿

役職等	氏名		氏名
①代表者	農泊 太郎	①の地位継承者	古民家 次郎
②運営責任者(プロジェクトマネージャー)	古民家 次郎	②の地位継承者	里山 一郎
③事務局長	農泊 太郎	③の地位継承者	古民家 次郎
④経理責任者	里山 一郎	④の地位継承者	山田 里美
監査役	行政 花子		

※1 「事業実施主体構成員」における役割分担を踏まえつつ、代表者、運営責任者(プロジェクトマネージャー)、経理責任者及び代表者が不在となった場合の地位継承者等を必ず明示すること。

※2 代表者、運営責任者(プロジェクトマネージャー)、経理責任者については、経歴や実績(ただし、観光や地域振興に関係した分野に限定)を添付すること。

事業計画とその経費の内訳(※ 精算資料は必ず添付してください。)(高度化促進事業用)

事業の実施期間 令和5年度から令和5年度まで

取組内容と主な経費(1年目) (単位:千円)

取組内容	総事業費	本交付金	他の補助金等	自己資金	備考
1. 農泊地域高度化促進事業	①=②+③+④	②	③	④	
(1)インバウンド対応	¥2,000	¥2,000	¥0	¥0	
多言語講座の開講	¥432	¥432	¥0	¥0	
既存プログラムの多言語化・ツール作成	¥792	¥792	¥0	¥0	
食事メニュー開発	¥114	¥114	¥0	¥0	
インバウンド受入環境整備	¥662	¥662	¥0	¥0	
(2)ア高付加価値化対応(食)	¥0				
	¥0				
	¥0				
	¥0				
(2)イ高付加価値化対応(景観	¥0				
	¥0				
	¥0				
	¥0				
(3)ワーケーション対応	¥0				
	¥0				
	¥0				
	¥0				

注1 取組内容は、提案書の取組内容(課題に対する対応)と整合を図ること。
注2 「他の補助金等は」又は「自己資金」がある場合は、備考欄に資金の性格(相手方、資金の受入時期等)を必ず記載することとする。
注3 事業期間が複数年の場合、年度毎に整理することとする。

事業メニューの選択		ピンクセルは入力不要
☒	農泊地域高度化促進事業((1)インバウンド対応)	
☐	農泊地域高度化促進事業((2)ア 高付加価値対応(食))	
☐	農泊地域高度化促進事業((2)イ 高付加価値対応(景観))	
☐	農泊地域高度化促進事業((3)ワーケーション対応)	

過去の農泊推進事業の取組の概要

農泊推進事業の実施年度	平成	30	年度	～	令和	元	年度
当時の事業実施主体名	A地域農泊推進協議会						
実施要領別記4の別表2において農泊地域高度化促進事業の選定要件を踏まえた取組を記載							

○平成30年度から令和元年度にかけて農泊推進事業により、インバウンド受入に向けた体制整備を行うため、受け入れ施設での研修会や勉強会を4回開催した。

○また、インバウンドの受け入れで実績のある、〇〇県〇〇市の△△インバウンド農泊推進協議会への先進地視察を行った。

○在日外国人(10人)を対象にファムトリップ(モニターツアー)を実施し、参加者に対するアンケートを行い、観光コンテンツの磨き上げを行った。